

# よこはまユースレター

発行/公益財団法人よこはまユース  
 tel.045-662-3716 fax.045-662-7645  
 URL <http://yokohama-youth.jp/>  
 Eメール [soumu@yokohama-youth.jp](mailto:soumu@yokohama-youth.jp)

子ども・若者エンパワメントセミナー2019 報告

## 地域のまなざしとひきこもり

～地域で孤立しがちな青少年・若者へのまなざし～ (2019年11月18日)



当日は、さまざまななかたちで「ひきこもり」に関わる人たちが会場は満員となりました。

地域社会から孤立している青少年・若者たちが多数存在していることが広く知られるようになってきています。しかし彼らの抱える困難な状況は外からは見えにくく正しい理解も少ないため、周囲の不安に繋がったり、誤解を招くような報道がなされたりしています。彼らと地域社会で共生していくために、私たちに何ができるのでしょうか。

今年度のエンパワメントセミナーでは「ひきこもり」診療の第一人者である筑波大学教授 斎藤環先生をお招きし、社会的孤立について学び、地域社会のかかわり方や支援のあり方について考えました。

### ■“ひきこもり”の出口とは？

ひきこもっている人は「たまたま困難な状況にある人」であり、ひきこもりからの出口とは「就労や就学ではなく、自分自身の状態を肯定的に受け入れられるようになること」と齋藤先生は言います。そして、そのために必要なのが「対話」であり、相手に対して「あなたの事をもっと知りたい」という肯定的態度で対話を続けることが大切で、上から目線の批判や叱咤激励のダメ出しはかえって有害であると加えました。



### ■秋田県藤里町の取り組み

講演会では、秋田県藤里町社会福祉協議会の活動が紹介されました。藤里町では、年代に関わらず地域から孤立している状態が問題だと捉え、住民全体で参加・交流が行える場作りに取り組んでいます。こうした取り組みが安心安全な関係を作り、社会参加の土台となっているとのことでした。

### ■当事者からの声も

当日は、行政や学校、支援団体等の関係者のほか、子どもが不登校やひきこもり状態にある多数の保護者の参加がありました。参加者のアンケートでは「ひきこもりを、“家から出ない人ではなく社会との関係が上手く持てない人”と考えると、何か得るものがあるのではないかと思った」「対話の重要性・治そうとしない・安心安全を感じてもらうこと。大事なポイントがわかりました」などの声をいただきました。

なお、講演の内容は「YOKOHAMA EYE'S 2019」に掲載しますので（HPでも公開予定）ぜひ、ご覧ください。

報告

### 第59回 爆笑!濱っ子寄席 (12月4日 関内ホール)

長年にわたり濱っ子寄席をご支援いただいている三遊亭圓歌師匠の四代目襲名と、柳家権之助師匠の真打昇進のWお祝いの回でした。

お祝いにふさわしく、チケットは即日完売。当日は満員の観客の中、普段はなかなか見られない「披露口上」が行われました。



青少年交流・活動支援スペース さくらリビング

桜木町駅まえ どこいき隊！（9～10月）

「まち案内ボランティア～ラグビーW杯編～」

大道芸ボランティアの会（野毛ボラ）の皆さんと一緒に定期的実施している「まち案内のボランティア」。今年はラグビーW杯が横浜国際総合競技場で行われたこともあり、たくさんの外国人観光客の方を案内しました。



慣れない英語を使った案内でしたが、野毛ボラの皆さんからアドバイスをいただきながら、笑顔で案内をすることが出来ました。参加した高校生からは、「案内した人にお礼を言ってもらえてとても嬉しかった」「自分の知らなかった街を知ることができた」などの声を聞くことができました。

慣れない英語を使った案内でしたが、野毛ボラの皆さんからアドバイスをいただきながら、笑顔で案内をすることが出来ました。参加した高校生からは、「案内した人にお礼を言ってもらえてとても嬉しかった」「自分の知らなかった街を知ることができた」などの声を聞くことができました。

横浜市野島青少年研修センター

「のじまオープンデー」（2月16日）

センターを開放し、活動や施設について知ってもらうことを目的に『のじまオープンデー』を実施しました。

当日は、クラフトや厨房を使ったパフェづくり、館内探検・ゲームコーナーなどのプログラムを高校生・大学生世代の青少年ボランティアが中心となって運営し、親子連れの参加者でにぎわいました。



運営に携わった青少年ボランティアは「自分の担当以外でも喜んでもらえるように考えて声かけができた」と振り返り、参加者もボランティアも充実した午後のひと時を楽しんでいました。

放課後キッズクラブ

「絵画サロン～芸術家の卵～」

（本町小学校放課後キッズクラブ）

月に1回、自由な発想で絵を描く絵画サロンを行っています。2月の題目は「ドットシール（丸シール）で遊んでみよう!」。たくさんのシールを使って、思い思いに作品を作りました。



普段は「身体が止まっている時間がないんじゃないかしら?」と思うような活発な子もじっと座り、真剣に取り組んでいる様子が見られました。

サロンでは他にも「紙やすりに太目の色鉛筆で描いてみよう」、紙やすりで石を削ってきれいな形に仕上げていく「勾玉づくり」など、様々な作品を作っています。毎回、どんな作品ができるのか楽しみです。

横浜市青少年育成センター

研修報告（1月30日～2月27日）

「子ども・若者の居場所を考える」連続講座

居場所づくりや青少年に関わる活動経験者を対象に、「子ども・若者の居場所を考える連続講座」を全4回シリーズで開催しました。

テーマは「居場所の概念を整理し、いま居場所づくりで問われている課題について実践から捉え直す」。多様化する居場所が、子ども若者にとってどんな意味があるかについて参加者とともに考えました。



4回を終えた参加者からは「考えが整理できたことで、また新たな課題や疑問が生まれました」と言った感想もあがり、今後の活動への新たな取り組み方が見つかったようです。

Thank you for your support.

ありがとうございました!

2019年11月1日から2020年1月31日までの寄附金

- ◆ユース賛助会費 54件 277,000円
- ◆一般寄附金 11件 183,162円

寄附金協力者（順不同、敬称略）

【団体】

神奈川県紙螺協同組合／(株)チアーズ／三ツ境幼稚園／第一カーボン株式会社／稲垣薬品興業(株)／日之出(株)／(有)横濱ランパート協会  
(株)ジェイコムイースト横浜テレビ／鶴見区子ども育成会連絡協議会／横浜金沢ロータリークラブ／横浜高速鉄道株式会社／(株)横浜アーチスト  
特定非営利活動法人 ともに浜をつくる会／ブックオフオンライン

【個人】

荒井 総平／荒巻 喜代子／荒巻 芳幸／飯島 幹夫／飯塚 道子／石間 千賀子／板垣 憲明／乾 英昭／岩崎 淳／大久保 皓司  
大澤 正之／大槻 哲夫／沖津 淑子／笠原 光子／片岡 喜久江／工藤 春治／熊井 憲一／雲井 耀一／澤出 吉秀／椎野 雅子  
嶋田 美保／鈴木 千代江／関野 修一／松本 磨理江／武 久美子／榎 晃／田邊 義勝／中村 輝次／沼尾 実／橋本 康正  
濱倉 公子／林 由美子／樋口 清美／古澤 竜夫／松井 祐次郎／眞鍋 明文／三橋 ツネ／安田 幸世／山本 亜紀子

暖かい沖縄の海へ、出産と子育てのためにやって来るザトウクジラ(座頭鯨)たちを観察する「ホエールウォッチング」。間近で見るクジラのパフォーマンスは、冬の沖縄でしか体験できないドラマチックな自然の営みでした。(畔)